



**2023年12月期
第2四半期決算説明会資料**

**株式会社オプトラ
2023年8月10日**



I

2023年12月期第2四半期実績

II

トピックス



I

2023年12月期第2四半期実績

【売上高】 209億円(前年同期比54.9%増) 新型装置比率46.2%

- スマートフォン:カメラ高機能化を支えるALD装置販売増加
- IoT:自動車分野、AR/VR分野等、幅広く販売

【営業利益】 66億円(前年同期比102.3%増)

- 利益率の高いALD装置が寄与。販管費事業計画内に進捗、営業利益率向上

【当期純利益】 34億円(前年同期比18.9%増)

- ヘッジ目的の為替予約評価損29億円計上も、増益確保

【受注高】 156億円(前年同期比42.1%減)

- スマートフォン:タッチパネルやカメラモジュール向け多数受注
高機能化ニーズは強い中、2Q受注は後ろにずれ込み
- IoT:自動車分野ダッシュボード、車載カメラやヘッドアップディスプレイ向け受注
- 新エネルギー分野で新たな受注を獲得
- エッチング装置でも初受注

2023年12月期第2四半期累計実績のポイントです。

売上高209億円、前年同期比で54.9%増加、新型装置比率は46.2%と高水準でした。

スマートフォンは、カメラ高機能化を支えるALD装置販売が増加し、IoTにつきましては、自動車分野、AR/VR分野等、幅広く販売いたしました。

営業利益は、66億円、前年同期比102.3%増加いたしました。

利益率の高いALD装置が寄与しています。販管費は事業計画内に進捗しており、営業利益率向上に貢献しております。

当期純利益は、34億円、前年同期比18.9%増加いたしました。

ヘッジ目的の為替予約評価損29億円計上しておりますが、増益を確保いたしました。

為替予約については、年初に年間の外貨売上高を全てカバーする目的で締結しており、残高に対する6月末の評価損が29億円計上されました。7月以降も外貨建て売上高の計上に伴いプラスの方向になり、年間を通じてネットアウトしていくものです。

受注高については、156億円、前年同期比42.1%減少いたしました。

スマートフォンにつきましては、第1四半期でタッチパネルやカメラモジュール向け装置の多数受注を獲得いたしました。

スマートフォンの高機能化ニーズは強い中、第2四半期の受注は後ろにずれ込んだ影響で減少となりました。

IoTについては、自動車分野ダッシュボード、車載カメラやヘッドアップディスプレイ向け受注を獲得いたしました。

また、新エネルギー分野で新たな受注を獲得し、以前から研究開発しておりました、エッチング装置でも初めての受注を獲得いたしました。

業績ハイライト



(単位:億円)

	2022年12月期 第2四半期累計実績	2023年12月期 第2四半期累計実績	前年同期 増減率	2023年12月期 業績予想
売上高	135	209	154.9%	355
売上総利益	61 (45.6%)	105 (50.3%)	170.9%	—
営業利益	32 (24.4%)	66 (31.8%)	202.3%	86 (24.2%)
経常利益	44 (33.1%)	42 (20.4%)	95.4%	86 (24.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	29 (21.6%)	34 (16.6%)	118.9%	62 (17.5%)
研究開発費	13 (10.0%)	20 (9.6%)	149.7%	34 (9.6%)
設備投資額	6	10	163.1%	56
受注高	270	156	57.9%	—
受注残高	416	316	76.0%	—

(注) カッコ内%は売上高に占める割合

2

ポイントを踏まえ、業績ハイライトです。

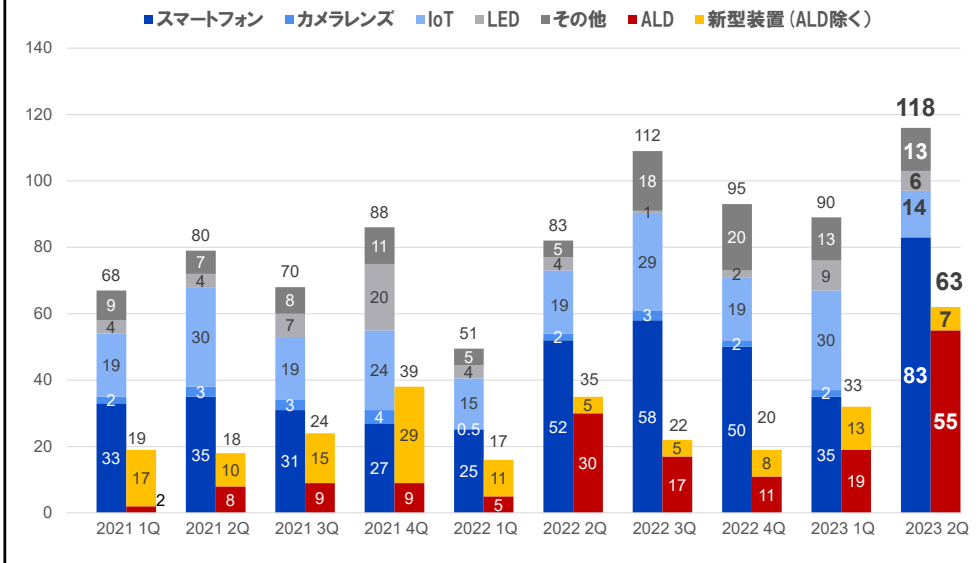
売上・利益以外では研究開発費20億円、設備投資額10億円、
受注高は156億円、6月末受注残高は316億円となりました。

分野別売上高四半期推移



- ALD装置を中心にスマートフォン分野好調
- 新型装置比率46.2%に上昇。自動車、LED向け堅調

(単位:億円)



分野別売上高の四半期推移です。

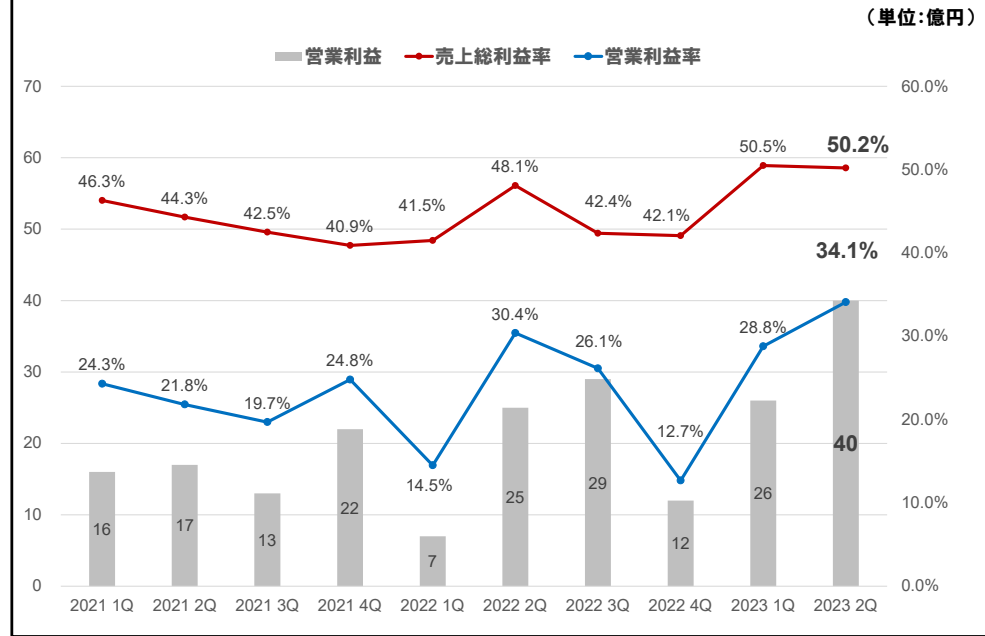
第2四半期の売上高は、ALD装置売上を中心にスマートフォン分野売上高が好調に推移いたしました。

第2四半期累計の新型装置比率は46.2%となりました。

営業利益・売上総利益率・営業利益率四半期推移



● 新型装置比率上昇に伴い、粗利率50%超を実現



営業利益・売上総利益率・営業利益率の四半期推移です。

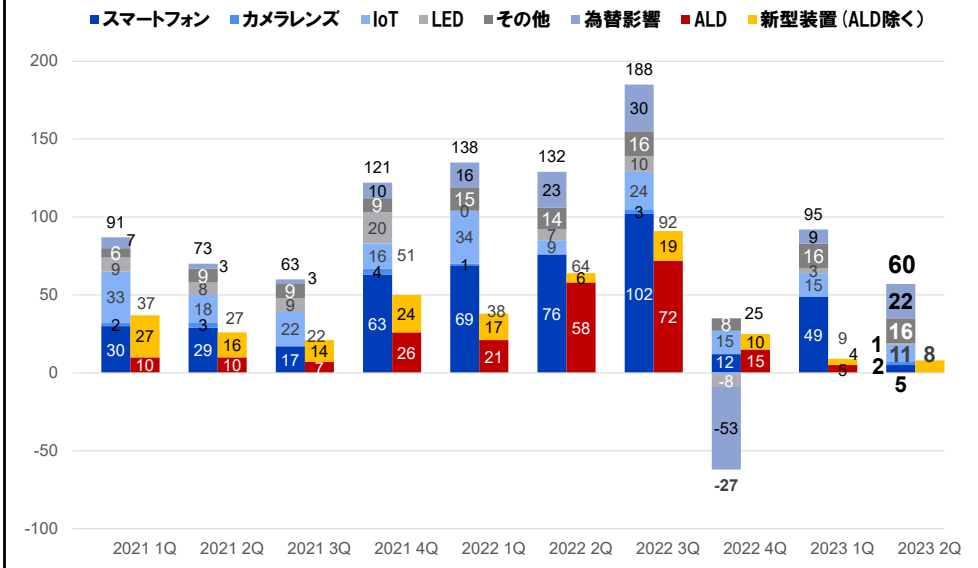
新型装置比率が高水準だったことに伴い、売上総利益率50.2%、営業利益率34.1%と高水準を確保いたしました。

分野別受注高四半期推移



- ・ スマートフォンは高機能化ニーズはあるものの、受注時期はずれ込み
- ・ IoTは、車載カメラ、AR/VR向けが堅調
- ・ 新エネルギー関連向け装置受注、エッチング装置を初受注

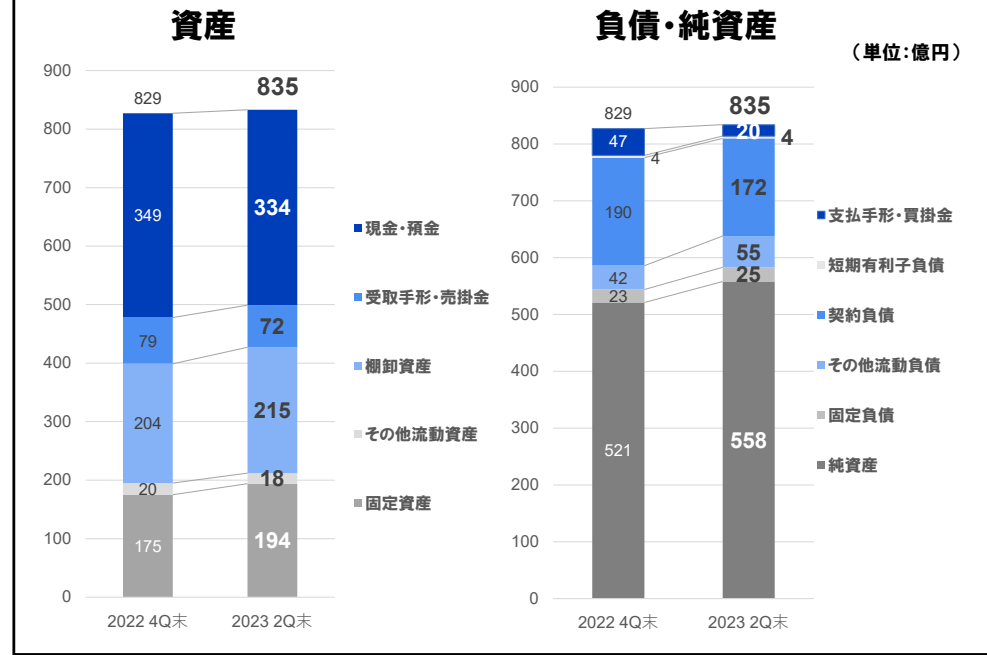
(単位:億円)



分野別受注高の四半期推移です。
第2四半期の受注高は、60億円となりました。

スマートフォンは高機能化ニーズはあるものの、受注時期は後ろにずれ込んでおります。
IoTについては車載カメラ、AR/VR向けが堅調に推移いたしました。
また、新エネルギー関連向け装置及びエッチング装置の受注を獲得いたしました。

連結貸借対照表



連結貸借対照表です。
 第2四半期末は2022年末と比較し大きく変わりませんが、
 資産は棚卸資産が増加しており、負債は契約負債が減少しております。

連結キャッシュ・フロー



(単位:億円)

	2022年12月期 第2四半期累計実績	2023年12月期 第2四半期累計実績	主な増減理由
営業活動によるCF	38	4	仕入債務の減少 契約負債の減少
投資活動によるCF	△5	△9	有形固定資産取得による支出
財務活動によるCF	△21	△19	配当金の支払による支出
現金及び現金同等物に 係る換算差額	18	8	
現金及び現金同等物の 増減額	30	△15	
現金及び現金同等物の 期首残高	322	349	
現金及び現金同等物の 期末残高	353	334	

7

連結キャッシュ・フローです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、4億円増加、投資活動によるキャッシュ・フローは、9億円減少、主に有形固定資産の取得によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、19億円の減少、主に配当金の支払いによるものです。

結果、現金及び現金同等物の増減額は15億円の減少となりました。

以上、2023年第2四半期実績の説明を終了いたします。



Ⅱ トピックス

事業領域の展開



当社は創業から光学部品の領域を主として事業を行ってまいりました。
今後、さらに成長するため、光学に加え、半導体光学融合、電子デバイス領域に事業を拡大していきます。

以前からスマートフォン向け反射防止膜や加飾膜、バンドパスフィルタ等、光学分野への成膜に注力してまいりました。
2016年頃から半導体光学融合のトレンドが見え始め、イメージセンサやAR/VR、光電子向け装置の研究開発を開始し、
2020年頃から半導体光学融合関連の受注を獲得いたしました。

また、直近3年間では電子デバイス関連のニーズが高まり、新エネルギーや通信デバイス関連の研究開発を促進してまいりました。
その結果、2023年第2四半期に電子デバイス関連の新エネルギー、通信デバイス向けで受注を獲得いたしました。

各種基材用高機能硬質膜の開発



様々な基材(金属・ガラス・プラスチック)上に、特殊機能を持つ高機能硬質膜を成膜するニーズが高まっており、顧客ニーズに合致した成膜装置の開発を進めている

- ・ 金属筐体用硬質加飾膜
- ・ カバーガラス傷防止用硬質膜
- ・ フレキシブルディスプレイ傷防止用硬質膜
- ・ AR/VR・プラスチックレンズ用硬質膜



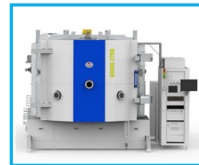
【スマートフォン】



【スマートグラス】



【自動車】



【蒸着装置】



【スパッタ装置】



【スパッタ装置】



【インクジェット装置】
(注)ナノリソティックス(株)装置

2023年第1四半期において、
スパッタ装置大型受注実績あり、今後の受注に期待

9


そのような状況の中、既存の光学分野では、金属・ガラス・プラスチック等の様々な基材上に、特殊機能をもつ高機能硬質膜を成膜するニーズが高まっております。

例えば、従来の白黒だけでなく、様々な色の硬質加飾膜を成膜可能な金属筐体用硬質加飾膜やガラスの傷防止用硬質膜、フレキシブルディスプレイへの傷防止用硬質膜、AR/VR・プラスチックレンズ用硬質膜等様々な基材への硬質膜の研究開発を行っております。

既存の蒸着・スパッタ装置に加え、AIメカテック株式会社との合弁会社、ナノリソティックス株式会社のインクジェット装置に加え、光学市場に展開していきます。

カバーガラス向け硬質膜については、2023年第1四半期にスパッタ装置大型受注を獲得しており、今後の受注に期待しております。

半導体光学融合 Meta-surface分野への進出





1990年3月
日立テクノエンジニアリング株式会社が発城建設の取得、及び電子部品製造設備の製造・販売を目的に、電機工場を創業

2006年4月
株式会社日立製作所、株式会社日立インテグレイズ（日立テクノエンジニアリング株式会社）他2社が親会社、株式会社日立プラントテクノロジー発足

2013年4月
株式会社日立製作所、株式会社日立プラントテクノロジーが合併、株式会社日立製作所インフラシステムが吸収合併、事業本部設立

2016年7月
株式会社日立製作所、日立システムズが合併、日立システムズ株式会社設立

2021年7月
東京証券取引所市場第二部株式上市（2022年4月スタンダード移行）





フラットパネル市場（ODF、マイクロボール など）

インクジェット、ナノインプリント、位置合わせ

光学設計、成膜技術（スパッタ、蒸着、ALD）

ドライエッチング



1999年8月
各種光学成膜装置製造販売を目的に設立

2000年3月
光通信用多層膜フィルタ成膜装置販売

2001年1月
光学薄膜形成装置 OTFCシリーズ販売

2009年10月
光学膜用入ロウ成膜装置販売



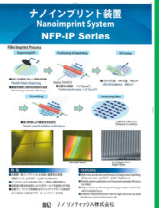


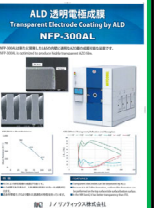
2017年12月
東京証券取引所市場第一・二部株式上市（2022年4月プライム移行）

2019年8月
アズビエ電子増幅装置販売

2021年6月
ドライエッチング装置販売

設計・パターニング・成膜・Etchingの表面処理技術を融合し、精密光学分野で「One Stop Solution」を提供

2025年売上高100億円を目指す

Meta-surface	Ink Jet	Nanoimprint	Surface Texture	Selective Coating	ALD Filling
<p>メタサーフェス精密加工装置 Outfit Simulator & Production Equipment for metaSurface</p> <p>NFP-MG Series</p> 	<p>インクジェット塗布装置 Inkjet Dispenser</p> <p>NFP-IJ Series</p> 	<p>ナノインプリント装置 Nanoimprint System</p> <p>NFP-IP Series</p> 	<p>ナノマテリアル精密加工装置 Nano Focused Materials System</p> <p>NFP-300IFE</p> 	<p>ナノマテリアル精密塗布装置 Nano Focused Material Processing System</p> <p>NFP-300EV</p> 	<p>ALD 透明電極成膜 Transparent Electrode Coating by ALD</p> <p>NFP-300AL</p> 

10

半導体光学融合 Meta-surface分野への進出について説明いたします。

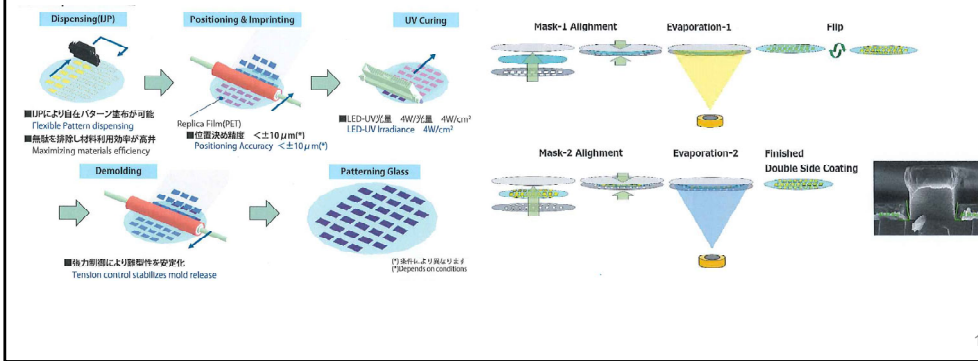
2023年7月3日にAIメカテックと合併会社、ナノリソティックスを設立いたしました。

ナノリソティックスは、AIメカテックのインクジェット・ナノインプリント技術と当社の成膜・エッチング・ALD技術を融合し、「One Stop Solution」を提供し、2025年売上高100億円を目指します。

ナノリソティックスは、ハードウェアを提供するだけでなく、Meta-surface技術に必要なプラットフォーム、ソフトウェアの開発を行います。Meta-surfaceのソフトウェア、Ink Jet、Nanoimprint、Surface Texture、成膜、ALDのハードウェアを「One Stop Solution」で提供いたします。

■特長

- インクジェット塗布により、必要な箇所に必要な量で3D形状基板へのパターンニングと膜の形成が可能
- インクジェット塗布+PVD装置成膜により、有機・無機膜の形成を実現し、膜性能向上
- 真空中の精密位置合わせ技術によって、必要な箇所のみで成膜
- 材料とナノインプリント加工により、エッチング性能を向上、製造コスト大幅減



11

ナノリソティックスの大気・真空、有機・無機ハイブリッド表面処理技術について説明いたします。

大気・真空、有機・無機ハイブリッド表面処理技術の特徴として

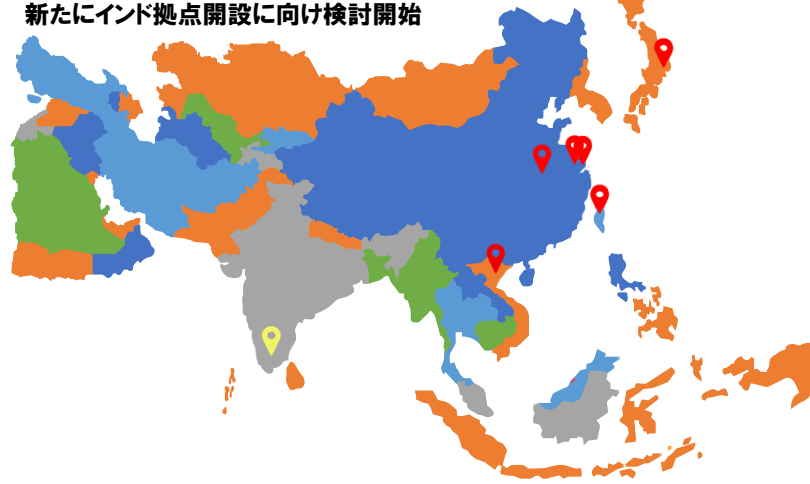
- ・インクジェット塗布により、必要な箇所に必要な量で3D形状基盤へのパターンニングと膜の形成が可能になること
- ・インクジェット塗布とPVD装置成膜を合わせることで、有機・無機膜の形成を実現し、膜性能が向上すること
- ・真空中の精密な位置合わせ技術によって、必要な箇所(選択成膜)のみで成膜可能となること
- ・材料とナノインプリント加工により、エッチングの性能を向上し、お客様の製造コストの大幅削減につなげることで、今後幅広い分野で付加価値を提供していくことが期待できます。

バリューチェーン変化への対応



地政学リスク回避、サプライチェーン安定化のため、バリューチェーンが変化する傾向にある中、当社グループは以下取り組みを通じ、対応する

- ・ 地産地消、中国向け販売装置は、中国で生産
- ・ 半導体光学融合用高性能精密装置を日本及び台湾拠点の生産強化
- ・ 2023年7月にベトナム拠点新設し、東南アジアの市場展開を強化
- ・ 新たにインド拠点開設に向け検討開始



12

地政学リスク回避、サプライチェーン安定化のため、バリューチェーンが変化する傾向にある中、当社グループは以下取り組みを通じ、バリューチェーン変化への対応をしております。

- ・ 装置生産販売の地産地消を原則に、中国向け販売装置は、中国で生産
- ・ 半導体光学融合用高性能精密装置を日本及び台湾拠点での生産強化
- ・ 2023年7月にベトナム拠点を新設し、東南アジアの市場展開を強化
- ・ 新たにインド拠点開設に向け検討開始

日本では本社機能強化のため、埼玉県鶴ヶ島市に拠点を開設いたしました。全ての部門を新拠点に集約し、効率化及び事業基盤強化を図ってまいります。

以上、トピックスの説明を終了いたします。

免責事項・注意事項・問い合わせ先



当資料に記載された内容は、2023年8月9日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【問合せ先】

E-mail: ir-info@optorun.co.jp TEL: 049-299-8199